—特集—

私たちがつくる、子どもたちの未来

時間の流れの中で、
未来に向けて風を吹かそうと思えば、
それをできるのは、今を生きる私たちだけ——
私たちの町、子どもたちの未来のために
今、何をするべきなのでしょうか。
今月の特集では、三期目を迎えた
稲本隆壽（たかとし）町長の所信表明などを掲載し、
これからの内子のまちづくりについて考えます。

無投票再選を決め、三期目に入った稲本町政——
さらなる飛躍を目指す稲本隆壽（たかとし）町長が、所信を語ります。

三期目の決意

ふるさと教育で未来を拓く

まず考えたいのは、内子町の将来を担う子どもたちのことです。子どもたちが内子町で、また自分の人生の中で、豊かな未来を築けるような素地をつくりたいと思います。そのために、ふるさと教育に力を注ぎます。このまちで営まれている産業を途絶えさせることなく、発展させていくには、子どもたちが町内の企業や農業、林業などに携わる人々の薫陶を受ける機会や環境をつくることが必要です。その中で地域に関心を持ち、将来内子町で暮らしたいという若者が育つことを期待します。

これは教育行政に関わることではありますが、英語教育に力を注ぎ、実社会で宗教や文化が違う人とコミュニケーションが取れる、ビジネスが展開できる、そんな若者を育てていくという目標を、しっかりと掲げていただきたいと思います。

林業の6次産業化を実現

引き続き、地場産品の販路拡大と農家の担い手確保に取り組み、多様な雇用を創出します。東京や大阪など大都市圏での販売促進を続けるとともに、海外へのPR活動にも力を入れます。また農産物の品質向上やブランド化、新規作物や加工品の開発により販売力を向上させることで、後継者や新規就農者を増やすことが必要です。農業の魅力を若者に伝え、事業継承や起業を支援したいと思います。

29年度から林業の6次産業化を形にする作業に入ります。内子町の木に付加価値を付け、販路を確保し、発電などもしながら木材を使い切る——。そんな循環をする仕組みづくりが始まります。

電柱のない内子商店街に

内子商店街の無電柱化に取り組みたいと思います。現在の商店街には複数の電線が張り巡らされ、景観を阻害する大きな要因となっているとともに、防災上の課題にもなっています。きれいな青空が広がる商店街にすれば、これまでと違った空気感が流れてくると期待できます。電力や通信会社、住民の皆さんに協力をお願いして、達成できればと思います。

内子町を世界に発信

町内滞在型の舞台・芸術の誘致にも取り組みます。内子町を世界に向けて情報を発信する手段は、芸術・文化・歴史だと思っています。

一昨年、森山未來（みらい）さんが1カ月間、内子町に滞在し、町の人たちとコミュニケーションを図りながら、素晴らしい舞台をつくりました。あのような舞台が毎年、あるいは2年に1度でもできる環境が整うなら、日本だけでなく、世界から大勢のお客さんが来てくれるはずです。東京を目指さなくても、この町で世界と出会える——。そういう町を皆さんと一緒につくりたいと思っています。

安全・安心のまちづくり

重要なのは安全・安心のまちづくりです。学校などの耐震化は進みましたが、自治会館や消防詰所、橋などの災害時に拠点となる施設やインフラが老朽化し、十分な機能を備えていない箇所もあります。これらの改修は計画的に進めていますが、多少前倒しにしてでも行い、いつ起こるか分からない災害に備えます。また現在運行しているデマンドバスを、より利便性の高いものにしていきます。

元気で魅力ある町を未来に

それらの他にも、取り組むべき課題はたくさんあります。健全な財政に留意しながら、あらゆる面に目を配り、一つ一つの業務を進めていきます。そして、まちづくりの主役である町民の皆さんの活力を失わないよう、『第2期内子町総合計画』『内子町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略』を念頭においた施策を展開し、持続的に発展し続けるまちを目指します。

私たちも考えよう

未来を拓く作戦会議

稲本町長の所信表明の中から、２つの計画の概要をお伝えします。また、町の人たちに今後のまちづくりに期待することや取り組んでほしいことを聞いたので、その内容を紹介します。人口減少をはじめとするさまざまな課題を乗り越え、子どもたちが希望を持てる未来を切り拓くために、私たちは何ができるのか、行政は何をするべきなのか――。一緒に考えてみませんか。

町民の皆さんにインタビュー

再選した稲本町長に期待していること、取り組んでほしいことを聞いてみました。

❶平真知子（まちこ）さん、莉子（りこ）ちゃん

子どもたちが伸び伸びと育つために、遊ぶ場所やお母さんたちが安心して働ける環境を作ってほしいです。働く場所がなければ、子どもも町に残ることはできません。子どもたちを宝物のように大切にする町であれば、うれしいです。

❷河井斗和（とわ）さん（左）　上本聡大（そうた）さん（右）

手漉き和紙や和蝋燭などの伝統工芸は内子町の誇りです。総合的な学習の時間で学び、後継者を途絶えさせてはいけないと思いました。僕たちも手伝うので、子どもたちに伝統工芸の良さを伝える取り組みに、力を入れてほしいです。

❸酒井安子（やすこ）さん

３月末に近くの農協がなくなるそうです。いつも買い物に行っていたので、不便になります。みんなと集まる場所でもあったので、寂しいですね。友だちと気軽に集まれる場所や移動する手段を増やしてほしいです。

❹徳田幸治（こうじ）さん

本物の芸能に触れる機会を増やして、文化芸能活動の裾野を広げてほしいです。そのためには、出演者も来場者も来やすくなるように町内や県内の劇場が連携し、負担する費用の軽減や宣伝力・広報力の向上を図るべきだと思います。

❺力石　亘（わたる）さん

内子産の食品は質が高く、「安全・安心」に自信を持って食卓に届けられます。これを貫き、誇りを持って畜産業や農業を続けるために、海外への販路拡大や新鮮なまま食品を届けるシステムの確立などに取り組んでほしいです。

❻宮内　聖（さとる）さん

林業は長い年月を掛け、きれいな山をつなぐ仕事です。だから若い世代の育成が重要。機械化が進み、やりやすくなりましたが、安全面の費用には負担感があります。担い手を確保するために、教育や補助などで、ぜひ力を貸してください。

❼山岡あけみさん

後継者がなく悩んでいる人が多いです。若い人が住まなければ人口もどんどん減り、商売も成り立ちません。商店街も頑張っていますが、資金や人手が不足しています。町の職員にも力を貸してもらい、新しい風を吹かせたいです。

林業の６次産業化

未来を拓く戦略①

木材の価値を高め、美しい山を守りながら育てる

木の育成から魅力的な製品や住宅の製造・販売までを地域で連携して、経済が循環する仕組みをつくる

林業６次産業化では、木材の生産、加工、販売、マーケティングを一貫して行います。その核となる「内子版地域商社」を設立し、山林が８割を占める内子町の林業を活性化する計画です。

間伐をしてきれいな森を育てなければ、品質のいい木材は作れません。そこで課題となる間伐の促進を、バイオマス発電をすることで解決したいと考えています。売電により間伐材の価値を高めるのです。また発電の際に発生する熱は、木材の乾燥に再利用します。山がきれいになることで、土砂災害の減少も期待できます。

運搬費の削減や木材置き場の確保など、課題もたくさんあります。また健全な森林を維持していくためには、計画的な整備が必要です。この取り組みが進めば、雇用が生まれ、経済効果も期待できます。林業が成長産業の１つとして１００年、２００年と続く仕組みをつくるため、関係する皆さんのご協力をお願いします。

滞在型舞台・芸術の誘致

未来を拓く戦略②

内子町の観光資源、歴史・文化・芸術を世界に向けて発信

滞在型の創作活動（アーティスト・イン・レジデンス。以下ＡＩＲ）の拠点として、内子町を発信します。

ＡＩＲの先進事例には、秋吉台国際芸術村や城崎国際アートセンターがあります。公募によって選ばれたアーティストを招き、年間を通して活動。作品の発表やワークショップなどを通じて、地域の魅力を世界に発信しています。

内子町でも、27年度に森山未来さんが滞在したほか、四国学院大学・演劇部の合宿などが行われています。舞台芸術の発表の場としてだけでなく、プロ・アマを問わず、芸術活動をする人たちや町民との交流の場として期待されています。文化の土壌が豊かになり、子どもたちの教育にもいい影響があるとも考えられます。

また舞台関係だけでなく、音楽や芸術に携わる人も誘致。内子座だけでなく「お山の学校ながた」「交友館」など、既存施設の利用を促進する計画です。29年度には立川志の輔師匠のお弟子さんのＡＩＲを計画中。７～10日間、内子町に滞在しながら落語講座や公演を行う予定です。

これまでの活動で「拠点施設の整備が足りない」などの課題が見えています。地元の人たちの協力を得ながら、積極的に内子町のＡＩＲを世界に発信していきます。

森山さんとエラ・ホチルドさんが、27年７月号の『広報うちこ』でＡＩＲについて語ってくれた